

学習状況調査 小・中学校共通 質問紙 質問のねらい

質問番号	内 容	質 問 の ね ら い
1	(1) 教科の学習に対する児童生徒の意識について	国語の勉強が好きか。
		国語の勉強を大切に思っているか。
		社会の勉強が好きか。
		社会の勉強を大切に思っているか。
		算数(数学)の勉強が好きか。
		算数(数学)の勉強を大切に思っているか。
		理科の勉強が好きか。
		理科の勉強を大切に思っているか。
		外国語活動(英語)の勉強が好きか。 【小学校・新規】
		外国語活動(英語)の勉強を大切に思っているか。 【小学校・新規】
2	(1) 教科の学習に対する児童生徒自身の理解度について	国語の授業をどの程度理解しているか。
		社会の授業をどの程度理解しているか。
		算数(数学)の授業をどの程度理解しているか。
		理科の授業をどの程度理解しているか。
		外国語活動(英語)の授業をどの程度理解しているか。 【小学校・新規】
3	(1) 授業に関する児童生徒の受け止めについて	自分の考えをもつことができているか。 【新規】
		自分の考えを発表する機会が与えられていたか。
		互いの考えを話し合う活動を行っていたか。
		互いの考えを聞き、自分の考えを深めたり、広げたりしているか。 【新規】
		授業のはじめに目標等が示されていたか。
		授業の最後に学習したことをまとめていたか。 【改】
		授業の最後に学習への取組の様子を振り返っていたか。 【改】
		授業で分からないことをどのように解決しようとしているか。
4	(1) 家庭での学習の取組について	平日の学習時間はどのくらいか。
		休日の学習時間はどのくらいか。
		平日、どのような学習に取り組んでいるか。 【改】
5	児童生徒の読書について	1日の読書時間はどのくらいか。
6	(1) 児童生徒の進路意識・自己認識等について	自分によいところがあると思っているか。
		将来への夢や目標を持っているか。
		学習と生活や社会の結び付きを感じているか。
		地域の行事に参加しているか。 【新規】
		自分の進路をどう考えているか。
7	(1) 調査問題に対する児童生徒の認識について	国語の調査問題の解答時間は十分であったか。 【新規】
		社会の調査問題の解答時間は十分であったか。 【新規】
		算数(数学)の調査問題の解答時間は十分であったか。 【新規】
		理科の調査問題の解答時間は十分であったか。 【新規】
		英語の調査問題の解答時間は十分であったか。 【新規】

※7(5)は中学生のみ回答

5 質問紙調査の結果の概要及び考察

(未回答の数値を表記していないため、100%とならない。)

(1) 小学校第5学年

ア 勉強について

(単位：%)

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	分からない
国語の勉強が好きだ。	平成23年度	27.0	35.8	22.1	12.5	2.6
	平成26年度	24.8	39.8	23.1	10.4	1.8
	平成29年度	26.9	40.6	20.8	9.6	2.1
国語の勉強は大切だ。	平成23年度	61.7	27.0	6.4	3.1	1.8
	平成26年度	67.7	23.6	5.0	2.4	1.3
	平成29年度	72.2	20.1	4.6	1.9	1.3
社会の勉強が好きだ。	平成23年度	31.1	33.8	20.9	12.1	2.0
	平成26年度	34.9	35.2	19.1	9.1	1.6
	平成29年度	38.5	35.1	16.9	7.9	1.4
社会の勉強は大切だ。	平成23年度	62.4	26.1	6.4	3.3	1.8
	平成26年度	68.9	22.2	5.5	2.3	1.0
	平成29年度	71.4	20.3	4.5	2.4	1.3
算数の勉強が好きだ。	平成23年度	44.1	27.8	15.2	10.9	2.0
	平成26年度	46.0	30.1	14.2	8.3	1.5
	平成29年度	45.0	29.0	15.0	9.2	1.7
算数の勉強は大切だ。	平成23年度	70.4	20.7	4.6	2.9	1.4
	平成26年度	73.5	19.4	4.1	1.9	1.1
	平成29年度	75.9	16.5	4.2	2.2	1.1
理科の勉強が好きだ。	平成23年度	59.4	26.5	9.0	4.0	1.1
	平成26年度	69.1	22.7	5.5	2.2	0.6
	平成29年度	65.5	23.6	7.2	2.8	0.8
理科の勉強は大切だ。	平成23年度	59.6	27.9	7.7	3.1	1.7
	平成26年度	65.9	25.1	5.5	2.2	1.3
	平成29年度	69.4	21.2	5.5	2.4	1.4
外国語活動の勉強が好きだ。	平成29年度	62.8	23.3	7.9	4.6	1.3
外国語活動の勉強は大切だ。	平成29年度	77.4	15.3	3.7	2.1	1.4

(今年度、新たに外国語活動に係る項目を設定した。)

①概況

- 「勉強が好きだ(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ。)」と回答した児童は、理科が約9割で最も多く、外国語活動、算数、社会、国語の順となっている。なお、国語、社会において、その割合が前回調査を上回っている。

- 「勉強は大切だ（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ。）」と回答した児童は、どの教科も9割を超えている。外国語活動が最も多く、算数、国語、社会、理科の順となっている。なお、国語、社会において、その割合が前回調査を上回っている。

②課題

- 「勉強が好きだ」の項目については、国語、社会、算数で「好きではない（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計。以下同じ。）」と回答した児童が2～3割いる。

③今後の対応等

- 授業の導入段階で、児童の興味・関心や驚き、好奇心、疑問などをもとに学習課題を設定するなど、児童の学習意欲を喚起するような工夫をする。
- 主体的に学習に取り組むことのよさを感じさせ、望ましい学習に向かう姿勢をほめるようにする。
- 児童が学習を行う上で、見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするなどの主体的な学習活動を取り入れる。

イ 授業について

(単位：%)

		よく分かる	だいたい分かる	分かることと分からないことが半々	分からないことが多い	ほとんど分からない
国語の授業がどの程度分かりますか。	平成23年度	23.9	48.0	23.7	3.5	0.9
	平成26年度	29.1	49.7	17.0	3.3	0.9
	平成29年度	36.0	45.4	14.5	3.1	0.9
社会の授業がどの程度分かりますか。	平成23年度	24.9	43.7	24.1	6.2	1.2
	平成26年度	33.6	42.8	17.6	4.8	1.1
	平成29年度	41.0	40.0	14.7	3.2	1.0
算数の授業がどの程度分かりますか。	平成23年度	38.4	35.7	19.0	5.6	1.3
	平成26年度	43.3	36.1	14.6	4.6	1.3
	平成29年度	45.4	33.9	14.8	4.5	1.4
理科の授業がどの程度分かりますか。	平成23年度	42.6	39.8	14.3	2.7	0.5
	平成26年度	54.6	34.5	8.7	1.8	0.5
	平成29年度	57.5	32.1	7.8	1.9	0.6
外国語活動の授業がどの程度分かりますか。	平成29年度	48.2	32.8	12.5	4.4	2.1

(今年度、新たに外国語活動に係る項目を設定した。)

①概況

- 「授業が分かる（「よく分かる」「だいたい分かる」の合計。以下同じ。）」と回答した割合は、理科が約9割で最も高く、国語、社会、算数が約8割となっている。
- 社会、国語、理科において、「授業が分かる」と回答した割合が前回調査を上回っている。

②課題

- 算数、社会、国語では、「授業が分からない（「分かることと分からないことが半々」「分からないことが多い」「ほとんど分からない」の合計）」と回答した児童の割合が約2割となっている。

③今後の対応等

- 児童の実態に応じて、教材や指導方法等の工夫をする。
- ティーム・ティーチングや個別指導、補充学習等を必要に応じて取り入れる。
- 児童一人一人の定着の状況に応じて、家庭学習の課題や方法等の指導をする。

ウ 授業中の指導について

(単位：%)

		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
授業では、自分の考えをもつことができていると思う。	平成29年度	35.3	43.7	17.3	3.6
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。	平成26年度	44.6	38.7	14.1	2.7
	平成29年度	48.7	34.3	13.2	3.8
授業では、学級の中で、互いの考えを話し合う活動をよく行っていたと思う。	平成26年度	39.9	42.4	14.9	2.8
	平成29年度	47.6	37.2	12.7	2.4
授業では、いろいろな考えを聞き、自分の考えを深めたり、広げたりしていると思う。	平成29年度	37.9	40.5	17.9	3.7
授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う。	平成26年度	53.6	32.1	11.4	2.9
	平成29年度	57.9	28.4	10.6	3.1
授業の最後に学習したことをまとめる活動がよく行われていたと思う。	平成29年度	63.0	26.7	8.1	2.1
授業の最後に自分の学習への取り組みの様子などを振り返る活動がよく行われていたと思う。	平成29年度	37.5	40.1	17.5	4.8
【参考】授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。	平成26年度	41.2	37.6	16.6	4.6

(今年度、授業中の指導方法に係る項目を追加した。)

①概況

- 授業で「自らの考えを発表する機会が与えられていた」「互いの考えを話し合う活動をよく行っていた」（いずれの項目も「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計。以下同じ。）と回答した児童は8割を超えている。
- 「授業の最後に学習したことをまとめる活動がよく行われていたと思う（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計）」と回答した児童が、約9割いる。

②課題

- 「授業の最後に自分の学習への取り組みの様子などを振り返る活動がよく行われていたと思う」の項目については、「行われていない」（「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の合計。以下同じ。）と回答した児童が約2割いる。

③今後の対応等

- 授業の終わりには、学習内容をまとめるだけでなく、児童自身に学習への取組の様子や考えの変容、新たな気づきや疑問などを振り返る活動を行うようにする。
- 授業の中で、互いに考えたり、発表したりする活動を行うことは、思考力・判断力・表現力等の育成に極めて重要であることから、引き続き、取り入れるようにする。その際、学習活動のねらいを明確にし、ねらいに到達しているかどうかを適切に確認する必要がある。
- グループ学習やペア学習を取り入れる際には、一人一人の児童に自分の考えをもたせた上で、活動する場を設定する。

○授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。(複数回答) (単位：%)

	その場で先生にたずねる	授業が終わってから先生にたずねに行く	友人にたずねる	家族にたずねる	塾や家庭教師の先生にたずねる	自分で調べる	そのままにしておく
平成23年度	21.3	16.1	53.4	55.8	4.3	37.9	13.2
平成26年度	22.6	13.9	53.6	53.7	4.2	38.9	10.7
平成29年度	29.9	19.3	62.4	57.7	5.3	46.0	13.5

①概況

- 児童が分からないことを多様な方法で理解しようとしていることがうかがえる。
- 授業の中で分からないことがあった場合、「友人にたずねる」と回答した児童の割合が大きく増加し、6割を超えている。
- 前回調査と比較すると、「自分で調べる」と回答した児童の割合は、大きく増加している。

②課題

- 分からないところを、「そのままにしておく」と回答した児童が約1割おり、前回調査に比べ増加している。

③今後の対応等

- 教師が自ら一人一人の児童と触れ合う機会をつくり、よさを認めたり、悩み事を聞いたりすることを通して、児童と信頼関係を築き、何でも相談できるような人間関係を構築する。
- 分からないことを児童自身が自ら調べることも大切なことなので、調べ方や調べたことの意味などを含めて、指導する必要がある。

エ 家庭学習について

○普段（月曜日から金曜日）、学校の授業時間以外に1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか。(単位：%)

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分より少ない	全くしない
平成23年度	5.9	16.4	41.4	26.0	7.2	3.1
平成26年度	6.0	16.2	44.6	25.8	5.8	1.6
平成29年度	6.1	16.4	45.0	26.7	4.4	1.5

○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。

(単位：%)

	4時間以上	3時間以上、 4時間より 少ない	2時間以上、 3時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	1時間より 少ない	全くしない
平成26年度	2.6	8.4	19.4	39.8	25.8	4.0
平成29年度	3.2	9.0	19.8	38.7	25.1	4.3

○普段（月曜日から金曜日）、家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。（複数回答）

(単位：%)

	ほとんど 勉強しない	宿題が出れば、 宿題をする	試験があれば、 それにそなえて 勉強する	予習をする	復習をする
平成23年度	4.8	76.1	35.2	42.3	
平成26年度	3.2	75.4	31.7	42.9	
平成29年度	2.9	78.4	49.9	27.6	50.7

	興味があること について自分で 調べたり、確か めたりする	苦手な教科に 取り組んでいる	時間を決めて、 勉強をしている	学習する内容を 自分で決めて、 勉強をしている
平成23年度	27.8			
平成26年度	24.8			
平成29年度	25.9	32.4	22.0	43.1

(今年度、選択肢を追加した。)

①概況

- 平日、学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上（「2時間以上」、「3時間以上」を含む。）勉強している児童は6割を超え、前回までの調査よりも増加している。
- 平日、児童が家庭学習に取り組んでいる内容としては、宿題が約8割を占めている。
- 休日に、1日当たり2時間以上（「3時間以上」、「4時間以上」を含む。）勉強している児童は約3割いるが、平日よりも約1割多い。

②課題

- 平日あるいは休日に、家庭学習の時間が1時間より少ない児童が約3割いる。
- 自分で学習内容を考えるなど、計画的に学習を進めることができていない児童が少ない。
- 休日に家庭学習を「全くしない」児童が約4%いる。

③今後の対応等

- 学年ごとの学習時間、教科ごとの家庭学習等の仕方について、学校や児童の実態を考慮し、教職員間で共通理解をして行う。
- 児童が自主的に家庭学習に取り組めるように、個に応じた学習内容や方法を具体的に指導する必要がある。
- 家庭学習の習慣化を図るために、保護者と家庭学習について話し合う場をもつなど、家庭と

の連携を図る必要がある。

オ 読書について

○1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(単位：%)

	1時間以上	30分以上、 1時間より 少ない	10分以上、30 分より少ない	10分より 少ない	全く、また は、ほとんど しない
平成23年度	10.9	23.0	28.1	15.5	22.5
平成26年度	12.6	22.9	27.2	15.8	21.4
平成29年度	17.4	26.8	32.2	11.0	12.4

①概況

- 学校の授業以外での読書時間は、「10分以上、30分より少ない」が約3割で最も多く、次いで「30分以上、1時間より少ない」が約2割となっている。30分以上（「1時間以上」を含む。）の読書をしている割合が約4割おり、年々増加している。
- 読書を「全く、または、ほとんどしない」児童は、年々減少しており、改善されている。

②課題

- 「全く、または、ほとんどしない」と回答した児童が、約1割いる。

③今後の対応等

- 読み聞かせや、国語の学習に図書紹介などの活動を取り入れるなど、読書をする楽しさや大切さを実感できる指導に、引き続き取り組む必要がある。
- 学校における読書の時間を確保する工夫をしたり、保護者への協力を求めたりする。

カ 自己認識や進路について

(単位：%)

		当てはまる	どちらかとい えば当て はまる	どちらかとい えば当て はまらない	当てはまら ない
自分には、よいところがあると思 う。	平成26年度	28.7	46.4	17.9	7.1
	平成29年度	39.9	38.8	14.0	7.3
将来の夢や目標を持っている。	平成26年度	72.2	17.0	6.6	4.2
	平成29年度	73.4	16.2	6.2	4.1
普段の生活や社会に出て役立つ よう、勉強したい。	平成23年度	56.4	31.7	7.2	2.8
	平成26年度	51.1	38.3	6.4	1.4
	平成29年度	44.4	38.8	13.1	3.5
今住んでいる地域の行事に参加 している。	平成29年度	50.8	24.7	12.7	11.7

(今年度、新たに地域の行事に係る項目を設定した。)

○将来どの学校まで進みたいですか。

(単位：%)

	中学校まで	高校まで	短大まで	大学まで	その他の学校まで	分からない
平成23年度	1.6	29.0	6.7	39.6	8.8	14.3
平成26年度	1.3	26.7	5.5	46.1	7.5	12.8
平成29年度	2.9	22.2	6.1	34.8	21.8	12.1

①概況

- 「自分には、よいところがあると思う（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計。以下同じ。）」と回答した児童は約8割いる。そのうち、「当てはまる」と考えている児童は前回調査から10ポイント以上増加し、良好な傾向にある。
- 「今住んでいる地域の行事に参加している（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計。以下同じ。）」と回答した児童は約7割いる。
- 「その他の学校まで」と回答した児童は約2割に増加しているが、今回調査から「専門学校等」の例示をつけた影響と考える。

②課題

- 「普段の生活や社会に出て役立つよう、勉強したい」の項目において、約2割の児童が否定的な回答（「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の合計。以下同じ。）をしている。

③今後の対応等

- 各教科等の学習において、適切な題材や場面を設定し、地域や社会とのつながりをもたせた学習指導を行うことで、児童に対し、学習した内容は、実生活でも活かせるという実感をもたせるための工夫をする必要がある。

キ 調査問題に対する児童生徒の認識について

(単位：%)

		時間が余った	ちょうどよかった	やや足りなかった	全く足りなかった
国語の調査問題の解答時間は十分でしたか。	平成29年度	23.5	31.0	40.1	5.3
社会の調査問題の解答時間は十分でしたか。	平成29年度	46.2	33.8	16.7	3.2
算数の調査問題の解答時間は十分でしたか。	平成29年度	47.0	32.8	16.4	3.7
理科の調査問題の解答時間は十分でしたか。	平成29年度	59.9	28.1	9.7	2.2

(今年度、新たに調査問題の解答時間に係る質問を設定した。)

(2) 中学校第2学年

ア 勉強について

(単位：%)

		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう 思わない	分からない
国語の勉強が好きだ。	平成23年度	21.5	35.8	27.3	12.9	2.5
	平成26年度	21.2	38.9	26.6	10.8	2.5
	平成29年度	23.2	38.5	24.7	10.9	2.7
国語の勉強は大切だ。	平成23年度	55.1	33.2	7.3	2.7	1.7
	平成26年度	59.0	31.7	5.9	1.8	1.6
	平成29年度	65.0	27.5	4.1	1.9	1.4
社会の勉強が好きだ。	平成23年度	29.1	32.4	23.9	12.6	2.1
	平成26年度	30.7	34.0	22.4	10.9	2.0
	平成29年度	35.6	33.5	19.6	9.4	1.9
社会の勉強は大切だ。	平成23年度	37.4	36.6	16.6	6.8	2.6
	平成26年度	43.6	36.3	13.4	4.4	2.3
	平成29年度	48.8	33.4	11.2	4.3	2.3
数学の勉強が好きだ。	平成23年度	25.1	29.1	25.4	17.9	2.5
	平成26年度	29.5	30.4	22.7	15.1	2.4
	平成29年度	28.7	29.4	23.6	15.5	2.7
数学の勉強は大切だ。	平成23年度	51.0	32.1	10.2	4.9	1.9
	平成26年度	55.4	30.7	8.7	3.4	1.7
	平成29年度	58.1	28.0	8.5	3.5	2.0
理科の勉強が好きだ。	平成23年度	27.8	34.0	23.6	12.5	2.1
	平成26年度	35.9	35.3	18.8	8.3	1.7
	平成29年度	36.0	34.8	18.8	8.4	1.9
理科の勉強は大切だ。	平成23年度	32.7	34.5	21.1	8.9	2.8
	平成26年度	38.6	35.3	17.5	6.0	2.6
	平成29年度	41.4	32.5	16.7	6.6	2.8
英語の勉強が好きだ。	平成23年度	24.2	30.0	25.9	17.0	2.9
	平成26年度	29.7	32.5	22.9	12.3	2.6
	平成29年度	31.2	31.5	21.5	13.1	2.7
英語の勉強は大切だ。	平成23年度	47.8	29.9	12.7	7.3	2.4
	平成26年度	56.8	27.0	9.2	4.7	2.2
	平成29年度	60.2	23.9	8.7	4.7	2.4

①概況

- 「勉強が好きだ」と回答した生徒は、理科が約7割で最も多く、社会、英語、国語、数学の順となっている。なお、社会、英語、国語において、その割合が前回調査を上回っている。

- 「勉強は大切だ」と回答した生徒は、国語が約9割で最も多く、数学、英語、社会、理科の順となっている。なお、社会、国語、英語において、その割合が前回調査を上回っている。

②課題

- 「勉強が好きだ」の項目については、「好きではない」と回答した生徒が、各教科とも3～4割いる。
- 「勉強は大切だ」の項目については、「思わない」（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計）と回答した生徒が、各教科とも約1～2割いる。
- 「勉強が好きだ」「勉強は大切だ」の項目について、平成26年度調査（小学校第5学年時）との比較から、ほとんどの教科で肯定的な回答が減少している。

③今後の対応等

- 授業の導入段階で、生徒の興味・関心をもとに学習課題を設定するなど、生徒の学習意欲を喚起するような工夫をする。
- 主体的に学習に取り組むことのよさを感じさせ、望ましい学習に向かう姿勢を認めるようにする。
- 生徒が学習を行う上で、見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするなどの主体的な学習活動を取り入れる。
- それぞれの教科を学ぶ意義や教科本来の楽しさについて、適切な教材や場面を活用し、かつ継続的に指導する。
- 生徒の理解の状況が学習意欲に影響を与える可能性が大きいことから、基礎的・基本的な知識・技能はもちろんのこと、活用する力を身に付けさせることが重要である。

イ 授業について

(単位：%)

		よく分かる	だいたい分かる	分かることと分らないことが半々	分らないことが多い	ほとんど分らない
国語の授業がどの程度分かりますか。	平成23年度	13.3	50.2	29.7	5.7	1.0
	平成26年度	18.0	51.6	24.7	4.6	1.1
	平成29年度	22.5	51.7	20.5	4.3	1.0
社会の授業がどの程度分かりますか。	平成23年度	19.7	39.3	28.0	10.7	2.4
	平成26年度	22.4	40.8	25.1	9.6	2.1
	平成29年度	29.7	40.2	21.2	7.4	1.5
数学の授業がどの程度分かりますか。	平成23年度	20.9	34.5	27.5	13.3	3.8
	平成26年度	26.0	36.1	23.9	11.0	3.0
	平成29年度	27.6	35.1	23.0	11.0	3.2
理科の授業がどの程度分かりますか。	平成23年度	16.9	37.9	30.9	12.0	2.3
	平成26年度	24.9	41.6	24.4	7.3	1.8
	平成29年度	27.5	40.3	23.0	7.5	1.7
英語の授業がどの程度分かりますか。	平成23年度	17.4	32.4	28.6	15.9	5.7
	平成26年度	24.2	35.7	24.5	11.7	3.9
	平成29年度	26.1	34.3	23.1	12.6	3.8

①概況

- 「授業が分かる」と回答した生徒は、国語が約7割で最も高く、次いで社会、理科、数学、英語の順となっている。
- 前回調査と比較すると、すべての教科において「授業が分かる」と回答した生徒の割合が、上回っている。

②課題

- 英語、数学の授業については、「授業が分かる」と回答した生徒が、約6割にとどまっている。
- 「授業が分かる」と回答した生徒が、平成26年度調査（小学校第5学年時）との比較から、ほとんどの教科で減少している。

③今後の対応等

- 生徒の実態や理解の状況、予想されるつまづきなどに応じて、教材研究や指導方法の工夫・改善をする。
- 授業内容の理解に差が見られる場合は、個別指導や少人数指導、補充学習等を、必要に応じて取り入れる。
- 生徒一人一人の定着の状況に応じて、家庭学習の課題や方法などの指導について工夫をする。

ウ 授業中の指導について

(単位：%)

		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
授業では、自分の考えをもつことができていると思う。	平成29年度	30.1	45.7	20.4	3.8
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。	平成26年度	37.4	44.8	14.9	3.0
	平成29年度	40.4	43.0	13.6	2.9
授業では、学級の中で、互いの考えを話し合う活動をよく行っていたと思う。	平成26年度	28.0	49.0	20.1	2.9
	平成29年度	41.8	42.5	13.5	2.2
授業では、いろいろな考えを聞き、自分の考えを深めたり、広げたりしていると思う。	平成29年度	34.3	44.0	18.5	3.3
授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う。	平成26年度	37.9	42.5	16.3	3.2
	平成29年度	52.9	35.3	9.8	2.0
授業の最後に学習したことをまとめる活動がよく行われていたと思う。	平成29年度	40.3	42.8	14.7	2.3
授業の最後に自分の学習への取り組みの様子などを振り返る活動がよく行われていたと思う。	平成29年度	24.0	43.1	27.1	5.8
【参考】 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。	平成26年度	22.0	45.9	26.4	5.6

(今年度、授業中の指導方法に係る項目を追加した。)

①概況

- 「授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う。（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計）」と回答した生徒は約9割いる。
- 「互いの考えを話し合う活動をよく行っていたと思う」と回答した生徒は約8割いる。

②課題

- 「授業の最後に自分の学習への取り組みの様子などを振り返る活動がよく行われていたと思う」の項目については、「行われていない」と回答した生徒が約3割いる。

③今後の対応等

- 授業の終わりには、学習内容をまとめるだけでなく、生徒自身に学習への取組の様子や考えの変容、新たな気付きや疑問などを振り返る活動を行うようにする。
- 授業の中で、互いに考えたり、発表したりする活動を行うことは、思考力・判断力・表現力等の育成に極めて重要であることから、引き続き、取り入れるようにする。その際、学習活動のねらいを明確にし、ねらいに到達しているかどうかを適切に確認する必要がある。
- グループ学習やペア学習を取り入れる際には、一人一人の生徒に自分の考えをもたせた上で、活動する場面を設定する。

○授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。（複数回答）（単位：％）

	その場で先生にたずねる	授業が終わってから先生にたずねに行く	友人にたずねる	家族にたずねる	塾や家庭教師の先生にたずねる	自分で調べる	そのままにしておく
平成23年度	16.5	15.6	63.1	32.0	12.5	42.2	24.7
平成26年度	16.6	17.1	66.3	35.8	13.0	47.7	21.2
平成29年度	24.7	23.9	74.2	36.5	15.5	54.3	20.0

①概況

- 生徒が分からないことを多様な方法で理解しようとしていることがうかがえる。
- 授業の中で分からないことがあった場合、「友人にたずねる」と回答した生徒が約7割で最も多く、次いで「自分で調べる」が約5割となっている。
- 前回調査と比較すると、「そのままにしておく」と回答した生徒は減少している。

②課題

- 授業の中で分からないことがあった場合に、「そのままにしておく」とした生徒が約2割いる。

③今後の対応等

- 教師が自ら一人一人の生徒と触れ合う機会をつくり、よさを認めたり、悩み事を聞いたりすることなどを通して、生徒と信頼関係を築き、何でも相談できるような人間関係を構築する。
- 分からないことを生徒自身が自ら調べてみることも大切なことであるので、調べ方や調べたことのまとめ方などを含めて、指導する必要がある。
- 発達の段階を考慮し、授業時間などにおいて、生徒が教え合ったり、教師が個別に補充したり、生徒が分からないことを質問したりする機会を意図的に設定していくことも重要である。

エ 家庭学習について

○普段（月曜日から金曜日）、学校の授業時間以外に1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか。（単位：％）

	3時間以上	2時間以上、 3時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	30分以上、 1時間より 少ない	30分より 少ない	全く、また は、ほとん どしない
平成23年度	3.9	16.8	37.4	25.6	10.1	6.1
平成26年度	4.4	20.5	40.0	23.6	8.1	3.3
平成29年度	4.7	21.8	42.2	21.5	7.0	2.4

○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。

（単位：％）

	4時間以上	3時間以上、 4時間より 少ない	2時間以上、 3時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	1時間より 少ない	全くしない
平成26年度	3.8	12.8	28.7	32.9	17.3	4.4
平成29年度	3.8	15.0	30.9	31.1	15.3	3.5

○普段（月曜日から金曜日）、家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。（複数回答）

（単位：％）

	ほとんど勉強 しない	宿題が出れば、 宿題をする	試験があれば、 それにそなえ て勉強する	予習をする	復習をする
平成23年度	9.3	79.0	59.8	26.2	
平成26年度	6.3	82.0	60.3	31.6	
平成29年度	6.1	84.3	69.5	14.1	44.9

	興味があること について自分で 調べたり、確か めたりする	苦手な教科に 取り組んでいる	時間を決めて、 勉強をしている	学習する内容 を自分で決めて、 勉強している
平成23年度	17.0			
平成26年度	17.4			
平成29年度	18.6	30.5	18.6	37.9

（今年度、選択肢を追加した。）

①概況

- 平日、学校の授業時間以外に、1日に2時間以上（「3時間以上」を含む。）勉強している生徒の割合は3割弱であるが、前々回、前回調査と比較すると増えている。
- 休日に、1日当たりの時間は、2時間以上（「3時間以上」「4時間以上」を含む。）勉強している生徒は、約半数である。

②課題

- 平日に、家庭学習の時間が2時間より少ない生徒が約7割いる。
- 休日に、家庭学習の時間が1時間より少ない生徒が約2割いる。
- 自分で学習内容を考えるなど、計画的に学習を進めることができている生徒が少ない。

③今後の対応等

- 中学生として求められる家庭学習の方法や時間等について、校内で共通理解を図り、全校体制で指導する。
- 家庭学習の時間を確保するために、生徒が家庭生活の過ごし方を振り返る活動を行ったり、保護者への協力を求めたりする。
- 授業のまとめ段階を工夫したり、教科ごとに家庭学習の方法を具体的に指導したりなどして、家庭での学習につなげる。
- 生徒が家庭での学習の拠り所とするため、授業中にノートを整理できるよう、ノート指導の工夫をする。
- 生徒の理解の状況に応じた課題を提示したり、具体的な学習方法のアドバイスをしたりするなどの支援を行う必要がある。

オ 読書について

○1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。 (単位：%)

	1時間以上	30分以上、 1時間より 少ない	10分以上、30 分より少ない	10分より 少ない	全く、また は、ほとん どしない
平成23年度	10.1	16.7	22.2	11.3	39.7
平成26年度	11.3	16.7	23.6	11.4	37.0
平成29年度	14.0	20.3	36.9	10.0	18.9

①概況

- 学校の授業以外での読書時間は、「10分以上、30分より少ない」と回答した割合が約4割で最も多く、前回調査と比較すると大きく増えている。
- 「全く、または、ほとんどしない」と回答した生徒の割合が前回調査と比較すると、大きく改善されている。

②課題

- 「全く、または、ほとんどしない」と回答した生徒が約2割いる。

③今後の対応等

- 読書を通して、知識や教養を広げることのよさや大切さについて生徒に気付かせ、自主的に読書をするよう、各教科等においても働きかけの工夫をする。
- 朝読書やブックトークなどの読書活動を、日常の教育活動に引き続き取り入れる。

カ 自己認識や進路について

(単位：%)

		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
自分には、よいところがあると思う。	平成26年度	19.3	44.7	25.1	11.0
	平成29年度	25.0	45.1	21.1	8.8
将来の夢や目標を持っている。	平成26年度	46.9	27.8	15.2	10.1
	平成29年度	47.4	27.7	15.4	9.5
普段の生活や社会に出て役立つよう、勉強したい。	平成23年度	44.5	38.4	11.1	3.5
	平成26年度	51.5	38.6	6.0	1.8
	平成29年度	41.3	43.2	12.3	3.3
今住んでいる地域の行事に参加している。	平成29年度	38.0	29.7	17.2	15.0

(今年度、新たに地域の行事に係る項目を設定した。)

○将来どの学校まで進みたいですか。

(単位：%)

	中学校まで	高校まで	短大まで	大学まで	その他の学校まで	分からない
平成23年度	0.4	29.9	7.5	40.7	6.1	15.5
平成26年度	0.5	28.8	8.6	44.0	5.4	12.5
平成29年度	1.0	22.5	5.8	41.6	14.8	14.1

①概況

- 「自分には、よいところがあると思う」と回答した生徒は約7割おり、特に「当てはまる」と回答した生徒の割合は前回調査を大きく上回っている。
- 「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した生徒は約7割いる。

②課題

- 「普段の生活や社会に出て役立つよう、勉強したい」の項目において、約2割の生徒が否定的な回答をしており、前回調査を大きく上回っている。
- 「その他の学校まで」と考えている生徒は約10ポイント増加しているが、今回調査から「専門学校等」の例示をつけた影響と考える。

③今後の対応等

- 各教科等の学習において、適切な題材や場面を設定し、地域や社会とのつながりをもたせた学習指導を行うことで、生徒に対し、学習した内容は、実生活でも活かせるという実感をもたせるための工夫をする必要がある。

キ 調査問題に対する児童生徒の認識について

(単位：%)

		時間が 余った	ちょうど よかった	やや足り なかつた	全く足り なかつた
国語の調査問題の解答時間は 十分でしたか。	平成29年度	18.2	29.7	43.2	8.8
社会の調査問題の解答時間は 十分でしたか。	平成29年度	54.1	37.0	7.3	1.5
数学の調査問題の解答時間は 十分でしたか。	平成29年度	26.6	35.1	30.4	7.8
理科の調査問題の解答時間は 十分でしたか。	平成29年度	70.5	23.3	4.8	1.4
英語の調査問題の解答時間は 十分でしたか。	平成29年度	42.5	42.3	12.5	2.5

(今年度、新たに調査問題の解答時間に係る質問を設定した。)

(3) まとめ

勉強については、前向きに努力したいと思っている児童生徒が引き続き増えている。

今後も、児童生徒一人一人の学習に向かう姿勢を積極的に認めたり、励ましたりすることを通して、意欲的に勉強に取り組もうとする気持ちや態度を、より強固なものに育てていくことが大切である。また、授業の導入段階で、児童生徒の興味・関心や驚き、好奇心、疑問などを基に学習課題を設定するなど、学習意欲を喚起し、向上させる工夫が必要である。

「授業が分かる」と回答した割合は、小学校では、理科の約9割を最高に、国語、社会、外国語活動、算数が続き、いずれも約8割である。中学校では、国語の7割が最高で、社会、理科が続いている。また、前回調査よりもその割合が増えている教科があり、確かな学力の定着に向け、分かる授業づくりがすすめられていると考えられる。

児童生徒の学習意欲と学習内容の理解や定着には、強い相関関係があると考えられる。そのため、今後も児童生徒の学習意欲や定着の状況を十分に把握した上で、学習意欲を喚起するとともに、その意欲を持続させるような授業展開や予想されるつまづき等に配慮した授業実践を進めていくことが大切である。

授業中の指導については、小・中学校ともに目標（めあて・ねらい）に対する学習内容をまとめる活動がよく行われているものの、自分の学習への取組の様子や考えの変容、新たな気付き・疑問などを振り返る活動は十分に行われていない。

児童生徒自身が学習を振り返ることは、自分の学び方や学んだことの意味を自覚するために有効である。今後は、これまでの学習内容や他教科等の学習内容を関連付けたり、学習内容を一般化したりして自分の言葉で言語化することなどが考えられる。また、単元や題材のまとまりを見通して、振り返りの場を設定することが大切である。

なお、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善は、特定の指導方法を取り上げることを求めているのではなく、児童生徒の資質・能力を育むことをねらいとしていることから、単に話し合い活動等を行うのではなく、授業者がねらいとする資質・能力を明確にし、そのために適切な方法や場面を設定することが求められる。

家庭学習については、年々、小・中学校ともに家庭学習の時間が長くなってきているが、学年の段階に応じて求められる家庭学習の時間が十分に確保されているとは言えない。また、学習内容は与えられた課題が中心であり、自主的・計画的な家庭学習の習慣が身に付いているとは言えない。

今後は、小学校高学年では平日1時間以上、中学校では平日2時間以上の学習時間を目安として、家庭での生活リズムを考えさせたり、児童生徒が自らの課題に応じた学習内容や方法を計画させたりする活動に継続して取り組む必要がある。その際、児童生徒一人一人の状況に応じた教師の適切な支援が重要である。また、学級懇談などの場を活用し、保護者と家庭学習や家庭での生活リズムについて話し合うことで、保護者と協力体制を築き、連携していくことが大切である。

読書については、読書時間が増加傾向にあり、読書が習慣化している児童生徒が増えてきていると考えられる。しかし、小学校では約1割、中学校では約2割の児童生徒が全く、またはほとんど読書をしていない状況にある。

今後は、読書が児童生徒の言語能力の育成に寄与することが期待されることから、望ましい読

書習慣の形成に引き続き取り組むことが重要である。また、読書のよさや大切さについて、考えたり話し合ったりする活動を取り入れたり、各教科等においても学習内容と関連する本を紹介したりするなど、児童生徒がより一層読書に親しむ工夫をする必要がある。

児童生徒の自己認識や進学については、小・中学校ともに、高校卒業後の上級学校への進学を考えている児童生徒が前回調査を上回っている。また、多くの児童生徒が夢や目標をもっている一方で、普段の生活や社会に出て役立つよう、勉強したいという児童生徒は減少傾向にある。

今後は、各教科等の学習において、適切な題材や場面で地域や社会とのつながりをもたせた学習指導を行うことで、児童生徒に対し、学習した内容が実生活で活かせるという実感をもたせるための工夫がさらに必要である。また、社会参画の意識を高めるためには、各教科等と総合的な学習の時間等を関連付けながら、児童生徒が自ら地域の行事や活動に参加できるような環境を整えたり、児童生徒に地域のよさや課題を発見させたり、その解決策を考えさせたりするなどの探究的な学習に取り組む必要がある。